

# 耕畜連携もみ殻事業 ～もみ殻が、地域をめぐる資源に～

- 青森県では、稲作が盛んな津軽地域、畜産業が盛んな県南地域それぞれにおいて「もみ殻」に関する「処理」と「活用」という面で課題を抱えている。
- あおもり創生パートナーズ（ACP）では、こうした県を横断する課題解決を目指し、2年間の実証活動を経て「もみ殻」を圧縮加工して流通させるビジネス「耕畜連携もみ殻事業」を2026年から開始。

## 地域課題（現状）

県内年間もみ殻発生量

推定 **5.8万** ト

野焼き処理

推計 **30%** 超

稲作事業者



**2~3往復/日×45日**  
かけて調達  
(調達手段すら有していないケースも)

おが粉価格指数  
(2005年を100とした場合)

(2024年) **215**

国内畜産敷料シェア推移  
(もみ殻)

12%▶▶▶ **28%**  
(2005年) (2024年)

畜産事業者



往復 **200km**

津軽地域

県南地域

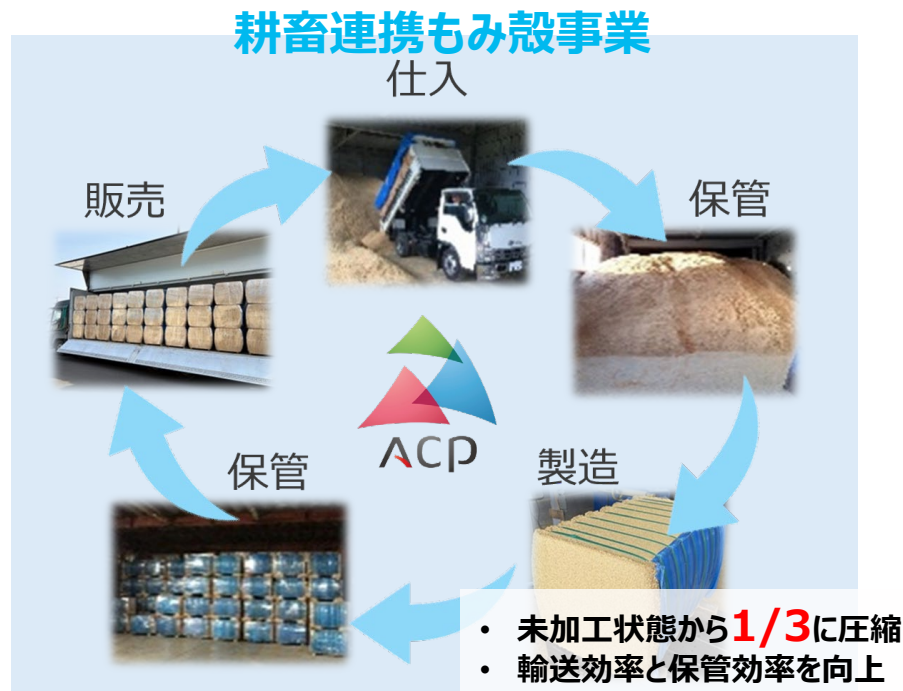
「もみ殻」を処理しないと次の収穫ができない

畜産事業者が一部引き取るが全量には難しい

敷料としてメインで使用している「おが粉」が高い

「もみ殻」で代替したい/しているが、輸送・保管面がネック

## 価値提案（ソリューション）



- ✓ 県を横断する「もみ殻」に関する課題について、あおもり創生パートナーズが圧縮流通させることで解決する事業
- ✓ 約2年の検証活動を経て2026年事業化

(出所) 農林水産省、農畜産業振興機構、青森県農林水産部資料を基に作成